

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成18年11月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症 平成18年10月分(平成18年10月2日~10月29日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	4	0.01	0.01		12	ヘルパンギーナ	13	0.05	0.14	↓
2	RSウイルス感染症	23	0.08	-	↗	13	麻疹	0	0.00	0.00	
3	咽頭結膜熱	120	0.42	0.21	↗	14	流行性耳下腺炎	82	0.28	0.94	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	282	0.98	0.67	↗	15	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.01	
5	感染性胃腸炎	2,117	7.35	3.48	↗	16	流行性角結膜炎	56	0.74	1.23	↗
6	水痘	180	0.63	0.76	↗	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	20	0.07	0.40	↓	18	無菌性髄膜炎	1	0.01	0.11	
8	伝染性紅斑	57	0.20	0.10	↗	19	マイコプラズマ肺炎	41	0.49	0.26	↗
9	突発性発しん	142	0.49	0.71	↗	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	7	0.02	0.01		21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風しん	0	0.00	0.01		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

定点把握(月報)五類感染症 平成18年10月分(10月1日~10月31日)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	51	2.22	2.25	↗	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	117	5.57	5.19	↗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	23	1.00	0.06	↗	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	24	1.14	1.80	↗
24	尖圭コンジローマ	11	0.48	0.49	↗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	6	0.29	0.48	
25	淋菌感染症	21	0.91	0.96	↗	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

手足口病 急減(9月40件 10月20件)
ヘルパンギーナ 急減(9月48件 10月13件)

急増減		増減		微増減		横ばい
↑	↓	↗	↘	↗	↘	↔
前月と比較しておおむね1:2以上の増減		前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について
定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患、月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾患No.	1	1~14	15, 16	22~25	17~21, 26~28	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症	発生なし
二類感染症	発生なし
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 11件 O157 10件 広島市保健所(2), 福山市保健所(1), 呉地域(1), 備北地域(6) O26 1件 広島市保健所
四類感染症	日本脳炎 1件 広島市保健所
全数把握五類感染症	6件 アメーバ赤痢 1件 尾三地域保健所 ジアルジア症 1件 東広島地域保健所 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 広島地域保健所 ウイルス性肝炎(B型) 2件 広島市保健所(1), 尾三地域保健所(1) 梅毒 1件 呉市保健所

3 一般情報

(1) 感染性胃腸炎について

今年、感染症発生動向調査定点からの感染性胃腸炎の報告が、39週(9月25日～10月1日)頃から、過去7年間のデータと比べて多くなっています。また、社会福祉施設内での集団発生事例も多く報告されています。これからの季節、注意が必要な感染症の一つです。

病原体

多くの細菌、ウイルス、寄生虫などが病原体となります。細菌では病原性大腸菌、腸炎ピブリオ、サルモネラ、カンピロバクターなど、ウイルスでは、ノロウイルス、ロタウイルス、腸管アデノウイルスなど、寄生虫ではクリプトスポリジウム、アメーバ赤痢などです。冬場になると、ノロウイルスやロタウイルスなどが多く検出されます。

症状

病原体によって異なりますが、発熱、下痢(水様便、血便)、腹痛、悪心、嘔吐などの症状が出ます。下痢症状が遅れてでる場合や発熱を伴わない場合もあります。

[ノロウイルスによる感染性胃腸炎の場合]

ノロウイルスに感染すると1～2日の潜伏期間を経て、吐気、嘔吐、下痢を主な症状として発病します。一般的に症状は軽症とされていますが、高齢者や乳児では脱水症状を起こす場合もあります。ウイルスは患者が回復しても、3～7日程度、糞便の中に排泄されます。

予後

一般的には、良好ですが、O157による腸管出血性大腸菌感染症など、重篤になる場合もあります。

感染経路

病原体によって異なりますが、主に経口感染です。

ウイルスによる感染性胃腸炎では、次のような感染が考えられます。

- ・汚染された食品を生または十分な加熱をしないで食べた場合
- ・感染した患者の便や吐物などに触れた場合
- ・感染した人が調理や配膳などをして汚染された食品を食べた場合

起原因菌が不明の場合、初期治療は、対症療法を優先し、症状の重症度や患者背景から抗菌薬の適応を判断する必要があります。

感染予防対策

食品の取扱い 食品は衛生的に取り扱い、十分に加熱調理しましょう。

手洗いの励行 外から帰った時は、トイレの後、調理の前、食事の前に、必ず石けんで手を洗いましょう。

嘔吐物等処理 嘔吐したもの、便で汚れたものには、直接素手で触れず、手袋を使って処理し、汚染箇所は次亜塩素酸ナトリウムで消毒しましょう。

入浴 下痢症状のある時は、シャワーだけにするか、入浴する順番を最後にし、体を十分洗って入浴しましょう。

その他 嘔吐したり、下痢症状がある時には、タオルの共用は控えましょう。

(2) インフルエンザの予防接種を受けましょう

例年は、11月下旬から12月上旬頃にインフルエンザの流行がはじまり、1月下旬から2月上旬をピークに減少していきます。インフルエンザは毎年人口の約1割の人が感染するといわれ、特に高齢者や幼児は重症化することがあるといわれています。

各医療機関で、インフルエンザの予防接種が実施されていますので、事前に電話等で予約を行うなどして受診してください。

<守って防いでインフルエンザ～ワクチン、手洗い、マスク、うがい～>

(今冬のインフルエンザ総合対策について 標語)